

【 検 査 】

838 HBc-IgM抗体（単なるB型肝炎疑い）の算定について

《令和8年7月31日》

○ 取扱い

単なるB型肝炎疑いに対するD013「8」HBc-IgM抗体の算定は、原則として認められない。

○ 取扱いを作成した根拠等

HBc-IgM抗体は、急性B型肝炎と無症候性キャリアの急性発症前やB型慢性肝炎の増悪例などの鑑別に有用であり、高値の場合はB型急性肝炎と考えられる。

また、当該検査の測定は急性肝炎の早期の診断、特に劇症肝炎や重症肝炎でHBs抗原やHBs抗体がどちらも陰性の場合などに特に有用とされている※。

一方、B型肝炎はHBs抗原とHBc抗体が陰性であれば除外でき、HBc-IgM抗体は必須ではない。

以上のことから、単なるB型肝炎疑いに対するD013「8」HBc-IgM抗体の算定は、原則として認められないと判断した。

（※）肝炎情報センターホームページ 厚生労働省作成の「B型肝炎等」